

評価ランク	評価内容
S	仕様書、提案書、協定書等(以下「仕様書等」という。)で定められた水準をかなり超えている
A	仕様書等で定められた水準に達している
B	仕様書等で定められた水準に達していないものも一部あるが、施設運営等に支障は生じていない
C	仕様書等で定められた水準に達しておらず、早急な改善・勧告が必要である

事業名	公募の有無	担当課
旧多摩川小学校有効活用事業	公募	地域文化課
事業者名	事業期間	
特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパン	平成27年8月1日～令和3年3月31日(5年8か月)	

評価の視点及び項目	自己評価		担当課評価	評価
	取り組み内容		自己評価 評価理由等	
(1)施設の設置目的達成に関する取り組み				
施設の設置目的の達成状況	提案時の事業計画および年次で報告している事業計画に沿い、施設の管理と企画運営を行ってきました。 提案時の目標はほぼ達成できており、その中でもフィルムコミッション事業とコミュニティ・デザイン事業に関しては、計画を上回る成果を上げています。	A	施設の設置目的を十分に理解して適正に管理・運営されている。	A
職員が施設の設置目的を十分に理解しているか	採用後の研修時に、施設の設置目的や管理運営上の基本的な事項等を教え理解した上で勤務させています。	A		
利用者の公平・公正利用の確保	たちかわ創造舎の設置目的の範囲内で、たちかわ創造舎利用規約の内容に沿う団体(個人)であれば利用対象者としています。ただし、体育館校庭を利用している「特別利用団体」に対しては公平性を欠くとのご意見を近隣スポーツ団体からもらうことがあります。	A		
事業の継続性の担保	たちかわ創造舎においては、経験と実績が豊富にある人材を採用してきました。そのため、前任者からの業務引き継ぎもスムーズで、業務の質を一時的にも落とすことなく継続できています。	A		
(2)業務の履行状況				
基本的事項	■開館日数:346日/年 ※月に1日休館日を設け、年末年始の7日間を休館 ■開館時間:9:00～22:00を基本とし、撮影利用で要望があった場合のみ最大7:00～22:00を開館 ■正職員5人、契約職員1人。アルバイトスタッフ約10人が、1日に早朝番、早番、遅番の3シフト制で勤務。	A	基本的事項については、各年度の事業計画書どおりに実施されている。 文化芸術事業の企画運営を中心に一定の利用者数を確保しつつ、アウトリーチ事業も浸透しつつある。 フィルムコミッション事業における撮影利用件数は当初事業提案時の想定を上回るものとなっている。 舞台芸術を中心に多岐にわたるプログラムを展開し、文化芸術による交流の創出が図られている。	A
利用状況	【施設来場者数】 平成27年度(8月～):17084人 平成28年度:43026人 平成29年度:45117人 平成30年度:33228人 平成31年度:24294人 令和 2年度(見込):23000人 【インキュベーション・センター事業 利用団体数】 平成27年度(8月～):3団体 平成28年度:4団体 平成29年度:4団体 平成30年度:4団体 平成31年度:4団体 令和 2年度(見込):4団体 【フィルムコミッション事業 撮影利用件数】 平成27年度(8月～):131件 平成28年度:309件 平成29年度:236件 平成30年度:214件 平成31年度:222件 令和 2年度(見込):210件 【サイクル・ステーション事業 事業参加者数】 平成27年度(8月～):366人 平成28年度:1116人 平成29年度:1678人 平成30年度:498人 平成31年度:308人 令和 2年度(見込):200人 【コミュニティ・デザイン事業 事業参加者数】 平成27年度(8月～):- 平成28年度:- 平成29年度:536人 平成30年度:602人 平成31年度:536人 令和 2年度(見込):125人	A		
運営企画	別紙	A		

評価の視点及び項目	自己評価		担当課評価	評価
	取り組み内容	自己評価	評価理由等	
(2)業務の履行状況(前ページからの続き)				
事業収支 経営状況分析指標	<p>【平成27年度】 ※8月～ 事業費:25,326千円 管理運営費補助金:6,446千円 管理運営費補助金率:25.5% 人件費率:28.0% ANJ負担金:2,125千円</p> <p>【平成28年度】 事業費:56,952千円 管理運営費補助金:7,739千円 管理運営費補助金率:13.6% 人件費率:33.4% ANJ負担金:0円</p> <p>【平成29年度】 事業費:53,467千円 管理運営費補助金:7,483千円 管理運営費補助金率:14.0% 人件費率:50.1% ANJ負担金:0円</p> <p>【平成30年度】 事業費:51,869千円 管理運営費補助金:7,217千円 管理運営費補助金率:14.0% 人件費率:45.2% ANJ負担金:7,398千円</p> <p>【平成31年度】 事業費:46,572千円 管理運営費補助金:7,249千円 管理運営費補助金率:15.6% 人件費率:49.6% ANJ負担金:1,280千円</p> <p>【令和2年度】 ※予算額 事業費:45,693千円 管理運営費補助金:7,249千円 管理運営費補助金率:15.9% 人件費率:50.0% ANJ負担金:835千円</p>	B	<p>事業収支は、事業収支計画書に基づき、適正に執行された。</p> <p>事業提案当初で想定していなかった、消費税増税や最低賃金上昇による人件費増加の影響はあったが適正な範囲で執行されている。</p> <p>損害保険等の加入状況及び第三者への委託状況は、適切なものである。</p>	A
損害保険等加入状況 不可抗力発生時のリスク分担及び対応	<p>■レクリエーション・施設入場者傷害保険 ・死亡、後遺障害(1名につき):5,000千円 ・入院(1名につき日額):3千円 ・通院(1名につき日額):1.5千円 ■賠償責任保険(A棟、B棟、体育館、運動場) ・一事故につき:300,000千円 ※施設所有 管理者特約・昇降機特約 ■企業総合保障保険(設備・什器・財物) ・一事故につき:3,000千円 ・借家人賠償責任総合保障特約 一事故につき:12,000千円</p>	A		
第三者への委託状況	<p>チーフ・ディレクター業務:倉迫康史 サイクル・ステーション事業 チーフ・コーディネーター業務:高田鐵也 ウェブサイト管理:小林至 総合管理業務委託:株式会社栄伸テクノサービス 警備委託:セコム株式会社 ごみ処理委託:有限会社中川産業</p>	A		

評価の視点及び項目	自己評価		担当課評価	評価
	取り組み内容	自己評価	評価理由等	
(3) サービスの質に関する事項				
職員の対応	職員およびアルバイトスタッフの挨拶・応対・服装・電話対応・接客対応・利用者への説明等に対して、クレームや批判的ご意見をいただいたことは一度もなく、来場者とのコミュニケーションは丁寧かつ適格であると認識しています。 施設来場者に対するアンケートの実施はしていませんが、企画ごとのアンケートにおいてスタッフの対応について批判的な回答をもらったことも一度もありません。	A	業務マニュアルの整備、それに沿った業務、OJTによる研修等を実施しており、職員及びアルバイトスタッフの対応に問題はない。 パンフレット、ホームページ、SNS等を通じた積極的な広報・PRにより、利用案内やイベント等の告知が行われている。 連絡体制が整備されており、非常時の対応、所管課への連絡報告が適切に実施されている。	A
マニュアルの整備	・情報資産の取扱い安全管理マニュアル ・ANJプライバシーポリシー ・たちかわ創造舎管理運営マニュアル を順守し業務を行っています。	A		
研修・教育の実施状況	アルバイトスタッフは採用から約1か月程度先輩スタッフと共に勤務することで研修としています。 職員の新規採用はすでに経験と実績を積まれた人材を採用しており、1か月の研修期間を設け研修・教育を行っています。	A		
所管部署との連携・連絡	たちかわ創造舎における緊急連絡体制は整備されており、非常時には1、チーフ・マネージャー、2、ロケーションサービスマネージャー、3、ロケーションサービス職員の順に電話連絡することとしています。 報告を受けた上記職員は、市の所管課（地域文化課）および必要に応じてたまたがわ・みらいパークへ報告しています。	A		
利用者アンケート等の実施	施設来場者全員を対象にしたアンケートは実施しておりません。 企画ごとに参加者、観客等に対するアンケートは実施しており、アンケート結果の公表はしていませんが、毎月立川市に報告しております。	A		
広報・PR等の利用情報の提供	たちかわ創造舎総合パンフレットおよび撮影利用ガイドを発行し配布。ホームページを随時更新し、最新の利用案内やイベント等の告知をしています。その他「広報たちかわ」のたちかわ創造舎枠やSNSも活用して情報を広く周知しています。事業の告知はメディアへのリリースも行っています。 ※パブリシティ一覧を別紙で添付	A		
公平・公正利用の確保	たちかわ創造舎の設置目的の範囲内で、たちかわ創造舎利用規約の内容に沿う団体（個人）であれば利用対象者としています。ただし、体育館校庭を利用している「特別利用団体」に対しては公平性を欠くとのご意見を近隣スポーツ団体からもらうことがあります。	A		
業務の点検	隔月開催の三者協議会や月に1度開催する職員会議やシェアオフィスメンバーミーティング、週に1度開催するTRYCLEミーテングなどの会議体で各所からの情報収集を行い、問題点があれば速やかに修正する体制をとっています。	A		

評価の視点及び項目	自己評価	担当課評価	評価理由等	評価
	取り組み内容	自己評価		
(4)施設・設備の維持管理状況				
清掃業務	■業者による清掃等の作業 ・トイレ清掃(週1回) ・全館清掃、ワックスがけ、窓清掃(年1回) ・除草作業(年2回) ・樹木の剪定作業(年1回) ■スタッフによる清掃等の作業 ・オープン前の廊下、トイレ等の共有部分清掃および消耗品の補充(毎日) ・屋内外(外周含む)の日常清掃(分担して毎日) ・草刈機、芝刈り機による除草作業(雑草、芝が伸びてきた都度)	A	業者及びスタッフの清掃により、衛生的な施設状態が保たれている。 法定点検及び任意点検ともに適切に行われており、施設の保守が実施されている。	A
施設及び設備の保守・点検	■業者による法定点検 ・特定建築物定期検査(年1回) ・建築設備定期調査(年1回) ・自家用電気工作物検査(年次検査年1回、月次毎月※遠隔監視による検査あり) ・エレベーター定期検査(年次検査年1回、月次検査毎月※遠隔監視による検査あり) ・消防用設備点検(年2回) ・給排水設備点検(年1回) ・簡易専用水道検査(年1回) ・害虫生育調査(年2回) ・体育器具点検(年1回) ・GHP保守点検(年1回) ■スタッフによる保守点検 ・年3回の施設チェック表に基づいた保守点検	A		
保安・警備	全館の鍵は事務室内のキーボックスにて保管。 来館者が簡単に持ち出せるようにはしていません。 アルバイトスタッフは定期的に館内外(外周含む)を巡回を行い、危険箇所、不具合箇所は発見し次第職員に報告しています。	A		
小規模修繕	【平成27年度】 件数:未確認 修繕費:1,533千円(施設整備費含む) 【平成28年度】 件数:未確認 修繕費:1,736千円(施設整備費含む) 【平成29年度】 件数:11件 修繕費:497千円 【平成30年度】 件数:9件 修繕費:621千円 【平成31年度】 件数:10件 修繕費:367千円 【令和2年度】※令和2年10月現在 件数:7件 修繕費:298千円	A		
備品管理	用途、目的の違う備品倉庫を設け、適切に管理している。	A		
(5)個人情報保護規定等の遵守状況に関する事項				
事業者の義務	職員は「情報資産の取扱い安全管理マニュアル」および「ANJプライバシーポリシー」に従い個人情報等を適正に扱っています。アルバイトスタッフには原則、個人情報の取り扱いはさせていません。	A	適切に実施されている。	A
個人情報等秘密の保持	「情報資産の取扱い安全管理マニュアル」および「ANJプライバシーポリシー」は立川市個人情報保護条例等の規定にも沿う内容になっています。	A		
適正な管理	職員は「情報資産の取扱い安全管理マニュアル」および「ANJプライバシーポリシー」に従い個人情報等を適正に扱っています。アルバイトスタッフには原則、個人情報の取り扱いはさせていません。	A		
研修・教育の実施	採用後の研修時に「情報資産の取扱い安全管理マニュアル」および「ANJプライバシーポリシー」を順守するよう教育しています。	A		
個人情報に関する取り扱いについて	「情報資産の取扱い安全管理マニュアル」および「ANJプライバシーポリシー」の順守。	A		

評価の視点及び項目	自己評価		担当課評価	評価
	取り組み内容	自己評価	評価理由等	
(6)安全管理(苦情・事件・事故対応)に関する事項				
事故・苦情対応状況	事故発生時には、施設の破損や怪我人の有無など迅速に把握し、的確に対応しています。 苦情に対しては、職員が丁寧に対応するとともに、立川市所管課および関係各所に報告、相談し対応しています。	A	安全管理に関する苦情等は、特になかった。 防犯カメラの設置、定期的なスタッフの巡回、連絡体制の整備等により、適正な事故防止対策がなされている。 災害発生時の対応マニュアルが整備され、対応体制も確立している。	A
事故の予兆に対する対応	施設の著しい破損や倒壊につながるような事故の予兆は感じたことはありません。 定期的にスタッフが巡回し、事故の予兆がないかを確認しています。			
具体的にヒヤリ・ハットした状況	特にありません。			
事故防止対策の取り組み状況	事故を未然に防ぐため、屋内外に計6台の防犯カメラを設置。定期的にスタッフが巡回し、事故につながる危険箇所がないかを確認しています。 トイレ等見通しの悪い箇所はチェック表を用いて、より慎重に確認しています。 事故発生時には速やかにチーフマネージャーへ報告し、指示を仰ぎ対応します。チーフマネージャーは状況を立川市に報告します。 救急箱、近隣病院のリストを用意し、急な傷病にも迅速に対応できるようにしています。 利用者と車両の導線が重なる場所などには十分な掲示物を掲出しています。 幸いなことに、今まで大きな事故は発生していません。	A		
災害発生時の取り組み状況	年に2回の避難訓練を実施し、火災、地震等の災害発生時の対応マニュアルを設けています。 たちかわ創造舎が避難所となる場合は、市の参集職員や近隣住民が避難所を開設するまでの補助を務めるため、防災課と近隣住民による避難所に関する会議にもできる限り参加し、施設の情報共有と私たちの役割について確認や意見交換をしています。	A		
(7)地域貢献に関する事項				
地域及び地域住民との連携	避難所に関する会議や、合同避難訓練のための会議、たまがわ・みらいパークの企画会議などに参加し、地域住民との意見交換をしています。 8月の諏訪神社の大祭の際は、親生会の一員として神輿を担ぐなど、率先して自治会とも関わっています。 日常的に挨拶をかわし会話の中で要望などがあれば対応を検討するなど、地域住民とは円満な関係性を作れていると思っています。	A	たまがわ・みらいパーク企画運営委員会をはじめ、近隣の学校や自治会、図書館等との関係は良好である。	A
(8)コンプライアンスに関する事項				
法令遵守及び社会規範・モラル等の遵守	当法人の理事および雇用しているすべてのスタッフ(正職員、契約職員、アルバイトスタッフ)は、犯罪・法令違反・不正行為等を行ったり、そのような行為を行う団体や個人と関わりを持っていません。 また、関連業務等について処罰を受けたこともありません。	A	特に問題なし。	A
◆ その他特記事項				
消費税増税および最低賃金値上げにより、光熱水費、警備委託費、施設管理人件費などが増加。				
◆ 総合評価				
事業者振り返りコメント				
<p>2015年8月から2021年3月までの期間、たちかわ創造舎は「共に学ぶ・創る・発信するファクトリー」をコンセプトとし、「インキュベーション・センター事業」、「フィルムコミッション事業」、「サイクル・ステーション事業」、「コミュニティ・デザイン事業」の4つの事業を柱として、立川市のみならず多摩エリアにおいて文化を担う人々や地域の方と共に歩み、多岐にわたるプログラムを展開してきました。</p> <p>「インキュベーション・センター事業」においては若手アーティストを対象としたシェア・オフィスの運営を行ない、「フィルムコミッション事業」においては、近隣住民や体育館特別利用団体にご理解いただきながら、撮影利用稼働率は当初の想定以上の成果を得ることができました。</p> <p>「サイクル・ステーション事業」においては、コーディネーターにNPO法人日本自転車環境整備機構(2015年～現在)を迎え、プロジェクトパートナーの「東京ヴェントス」(2015年～2020年3月)によってスポーツサイクルショップ＆コミュニティスペースを運営と、立川商工会議所との協働事業「たちボタ」が実現。その他多くの企画を共催事業として実施してきました。</p> <p>また、サイクルサッカーの地域クラブチーム「たちかわサイクルサッカークラブ」の拠点としても活用していただいています。</p> <p>「コミュニティ・デザイン事業」においては、プロジェクトパートナーのThatre Ort(2016年～現在)と共に文化施設に足を運ぶことが困難な親子やシニアを対象とした芸術体験事業を。また立川市地域文化課・立川市地域文化振興財団と協働した「立川シアタープロジェクト」での活動に加えて、立川市内の学校や公共施設のみならず、立川市内外問わず多摩エリアの公共および民間施設からも事業実施の要望に応える形で毎年事業を展開してきました。</p> <p>また、2018年からは「ファーレ立川アートミュージアムデー」において野外演劇の上演好評を得ました。</p> <p>2015年からの5年8か月で、たちかわ創造舎は立川市やたちかわ創造舎のプロジェクトパートナー、シェアオフィスメンバーとともに、立川の芸術文化、サイクルスポーツ文化の発展に貢献できたと考えております。</p> <p>施設管理の面としては、5年間の運営の間に想定以上の修繕が発生しました。また台風等災害による被害も年々増加していることから、今後の修繕計画に関しては、経年劣化・災害への備えを含めて考え直す必要があると感じています。</p>				
担当課評価 評価理由等				評価
インキュベーション・センター事業による人材の育成やフィルムコミッション事業による収益の確保などの成果から、民間活力の導入による廃校施設を活用した管理運営のモデル確立に繋がった。 事業者の強みである舞台芸術を中心とした文化芸術事業の企画運営を通じて、特色のある事業の実施と交流の創出が実現されている。 地域文化振興財団等との連携により学校や駅南側の公共施設(たましんRISURUホール、子ども未来センター)に出向いて公演する「立川シアタープロジェクト」等や、ファーレ立川アートミュージアム・デーへの参加などのアウトリーチ事業が浸透してきている。 施設については、適切に保守点検を実施し、事故や苦情等もない。 担当課との連携だけでなく、たまがわ・みらいパーク企画運営委員会をはじめ地域との結びつきを確立している。				A